



全曹青シンボルマーク

全国曹洞宗青年会 事務局
自身の未来に繋がる、

成長できるチャンスの場

事務局次長 内田裕大うちだゆうだい

全国曹洞宗青年会（以下全曹青）第二十三期事務局次長の内田裕大です。今回は事務局活動についてご紹介いたします。

事務局は事務局長、事務局次長、庶務六名から構成されており、「古教照心の示訓を旨に自己の研鑽に努め、互いに乳水和合し、自由で創造的活動を通じ、心豊かな社会の形成を目的とする」という、全曹青の目的を胸に会務運営はもちろんのこと諸事業が円滑に行えるよう統括しています。

今期スローガンは、「今を創ろう 明日を咲かせよう」です。私たちを取り巻く環境を一から見詰め直して今をしつかりと私たちが作っていかなければ、明日や未来に望むべく花が咲く事はありません。今を務めていくことが未来に繋がる、未来を繋ぐためには今を一つ一つしつかりと務めていく。やるべきこと、しなければいけないことをしつかりと見極めて全曹青の活動を行っていく。未来を自分たちの手で創り上げていく、



オンラインで開催された執行部会の様子

という思いが込められたスローガンです。

この思いは、全曹青のシンボルマークにも通じています。このシンボルマークは昭和五十三年に第二期(当時の会長は現大本山總持寺副貫首・石附周行老師)の時に作られたものです。燃え上がる青年のエネルギーを八正道の中に図案化し、それを法界定印でしっかりと支え包含し、未来に向かって無限を指向するデザインとなっています。

全曹青では年五回の執行部会・理事会に加え、定期及び臨時の評議員会・総会を開催し、活動計画の発表や報告を行っています。その会議がスムーズに行われるよう事務局は事前に資料を確認、当日は会場の準備、議事録作成や諸会議の補佐をしています。現在の執行部会・理事会ではパソコンやタブレットを使用し、ペーパーレスでの会議を行い環境に配慮しており、更には、今年度よりSDGsに取り組んでいます。

しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により全ての会議がZOOMを使用したビデオ会議となりました。コロナ禍で誰もが予想もしていなかった世の変化に、事業の中止や規模縮小など様々な影響を受けながらも、これまでとは形として目に見えてこなかったことを発見しながら、慣れないビデオ会議、新たな事業の取り組み、今できる事を実践しています。



2019年5月の定期総会で挨拶をする原知昭会長



●執筆者プロフィール
全曹青事務局次長
内田裕大

三重県曹洞宗青年会所属
第二十二期事務局庶務を経て、第二十三期
で事務局次長。

私は三重県曹洞宗青年会に所属していますが、平成二十九年に第二十二期の庶務として全曹青へ参加いたしました。最初は全曹青が何を目的にどのような活動をしているのかも分からず、初めての会議に出席した際は雰囲気や圧倒され不安な思いでの参加となりました。しかし次第に参加していくうちに、地元の青年会だけでは学ぶことのできない非常に貴重な経験をさせていただいている事を実感しました。

事務局の仕事は正直大変ではありますが、自分自身とても成長できる場であり、全国各地で交流を持てる場でもあります。これを読んでくださった青年僧侶の方は是非一度全曹青の活動に目を向けていただき、自分が成長できるチャンスの場と捉えて、ご縁があれば参加していただきたいと思います。そして私自身も全曹青で学んできたことを未来へ繋げられるよう精進し務めていきたいと思っています。